



行政ニュース

夢広場はるひ

保健だより

教室・講座

児童子育てだより

フォトダイアリー

インフォメーション



新川堤防の決壊現場(航空写真)

平成12年の豪雨災害から20年 語り継ぐ東海豪雨

東海豪雨時の気象概況と被害状況

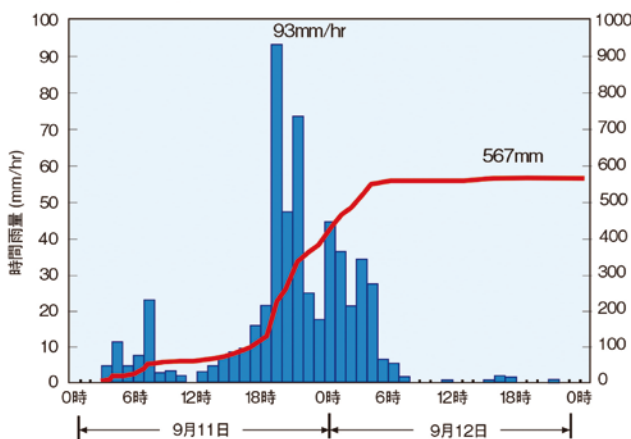
平成12年9月11日から12日にかけて、日本付近に停滞していた秋雨前線は、台風14号からの暖かく湿った気流の流れ込みにより活動が活発になり、東海地方は愛知県を中心に記録的な大雨となりました。

名古屋地方気象台によると、庄内川及び新川流域では、11日午後7時に時間最大雨量93ミリメートル、11日と12日の2日間で、愛知県の間総雨量の3分の1に当たる567ミリメートルを記録しました。

は、約2300世帯が床上浸水するとともに、旧西枇杷島町役場一帯の浸水位は、道路から約1・45メートルに達し、役場1階部分は水没しました。また、床上浸水の被害を受けた地域では、使用困難となった大量の家財道具が至る所で積み上げられ、その中でも、旧西枇杷島町では、床上浸水被害家屋が全世帯の約60パーセントに上り、家財道具などの災害廃棄物が約2万3000トンと、町の年間廃棄物処理量の約5倍に及びました。

※内水とは、堤防で守られた内側の土地にある水のこと(外水は河川の水のこと)

このため、新川では河口から16キロメートルに位置する、名古屋市西区あし原町の左岸堤防が100メートルにわたり決壊したほか、内水(※)ポンプの排水能力を上回る雨水流出によって内水氾濫が発生し、深刻な被害をもたらしました。



▲名古屋地方気象台雨量

出典：西枇杷島町「平成12年9月東海豪雨災害記録誌」
一般社団法人中部地域づくり協会「自然に学び、自然に備える」



行政ニュース

夢広場はるひ

保健だより

教室・講座

児童・子育てだより

フォトダイアリー

インフォメーション



①旧西枇杷島町の浸水状況(西枇杷島警察署前) ②ボートで救助される人々 ③県道59号線が冠水(東海道新幹線高架下)
④新川橋の橋桁に水位到達 ⑤名鉄西枇杷島駅の浸水状況 ⑥断水のため給水車が出勤
⑦道路に積み上げられた家財道具など ⑧旧西枇杷島町役場は1階と駐車場が水没(航空写真)

過去から学ぶ

防災への第一歩

当時は、「100年に一度の災害」とも言われた平成12年の東海豪雨ですが、近年では、この規模を超える災害が全国各地で頻繁に起きています。

想定外の大災害に備えるためには、「いつか起こる」ではなく「いつでも起こる」という危機感を常に持ち、「自分の命は自らが守る」という思いと、「お互いに助け合う」という思いを日頃から持つことが重要です。

そして、過去の災害を教訓として、災害の記憶を語り継ぎ、風化させないことが、私たちができる防災への第一歩となるのではないのでしょうか。

皆さんは、災害への備えはできていますか。

この機会にもう一度、家庭や地域で防災について考えてみてはいかがでしょうか。

平成12年の豪雨災害から20年

語り継ぐ

東海豪雨